

プロフィール

公共政策大学院を卒業後、総合商社での勤務を経て、平成 25 年度外務省平和構築人材育成事業に参加。海外実務研修では、国際連合児童基金（UNICEF）パレスチナ事務所に勤務し、Adolescent Development and Participation（青少年支援）プロジェクトのサポート業務を担当。現在は、同事務所の Learning for Development セクションにおいて、教育・青少年事業のモニタリング及びナレッジマネジメント等の業務に従事。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

国際機関での勤務に興味があったものの、それまでどの様に国連でキャリアを始めれば良いのかイメージ出来ていませんでした。そんな時、平和構築人材育成事業に参加した知人から、本コースは国際機関でのキャリアを始めるスタートポイントとしてとても適していると聞き、応募を決意しました。海外実務研修を通して、国連での勤務を経験できることだけでなく、充実した国内研修や、外務省によるサポートも非常に魅力的でした。

2. 国内研修に参加した感想は？

国内研修の充実度は期待以上でした。講義を通して、国際機関での勤務に必要な基礎知識を一通り学ぶと共に、グループワーク等を通して、講義で学んだ事柄を実践的に活用する練習を積む事が出来ました。私自身、大学・大学院で平和構築を勉強していましたが、その後空白があった為、国内研修は平和構築についてもう一度体系的に理解し、また国際機関が実際に行う平和構築事業について学ぶ良い機会となりました。また、日本人だけでなく、アジア諸国から参加する研修員と共にグループワークに取り組む事で、国際機関で様々な国の人たちと働くイメージが出来た様に思います。講師の方々も、実際に国際機関で勤務された事のある方ばかりで、授業も実践的かつとても有意義でした。また講師の皆様には、お忙しい中研修員達の相談に親身になって答えてくださり、大変感謝しています。

国内研修では、約一カ月の共同生活を通して他の研修員達との絆を築く事も出来ました。私にとって、広島で研修を一緒に受けた仲間達は、一年間の海外実務研修を通して非常に大きな助けとなりました。それぞれ違う国・機関で働いていても、国連ボランティア（UNV）として同じような課題を抱えている事も多く、情報交換するなどしてお互い助け合い、励ましあいながら実務研修に取り組む事が出来ました。研修員とは今でも連絡を取り合い、日本に一時帰国する際に集まったりしています。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

海外実務研修では、UNICEF パレスチナ事務所に派遣され、Adolescent Development and Participation（青少年支援）プロジェクトのサポート業務に従事し、主にプロジェクトのモニタリングやレポートを担当しました。

パレスチナにおいて、青少年・少女達は最も脆弱なグループの一つです。10代の多感な子ども達は紛争の影響を受けやすく、また児童労働や早婚を強いられるリスクもあります。特に、紛争下の抑圧や進展のない和平交渉、若年失業率の高さから、多くの子ども達が将来に希望を抱けない状況になってしまっています。

UNICEF パレスチナ事務所では、現地の NGO と共に 10 代の子ども達に対して、スキルトレーニングの提供や、コミュニティ課外活動のサポートを行っています。中でも特に、子ども達が自分自身でコミュニティの問題や課題を探し、その解決の為に活動を自分達で考え実施する、コミュニティイニシアティブの事業に力を入れています。こうした事業を通して、子ども達が平和的に問題を解決する力を身につけ、自分達のコミュニティにポジティブに関わるきっかけになればと考えています。



UNICEF 青少年支援プロジェクトの様子



ガザの学校を訪れた時の様子

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

海外実務研修では、UNICEF における青少年事業に関する理解を深める事が出来ただけでなく、UNICEF でのプロジェクトの進め方や、パートナーや他国連機関、地域事務所との関係などを知る事が出来、自分のキャリアにとって非常に有意義な経験となりました。また Peacebuilding Education のプロジェクトに携わる機会もあり、UNICEF における平和構築について理解を深める事が出来ました。

最も印象に残っているのは、実務研修中の 2014 年夏にガザ紛争が発生し、その緊急人道支援に取り組んだ事です。私は主にエルサレム事務所からリモートで、情報収集やレポーティング業務を担当していたのですが、報告を依頼していた現地 NGO パートナーから、「事務所の前の建物が爆撃されたから今すぐ退避しないとイケない」と電話がかかってきた時の事は、この先もずっと忘れたいと思います。ガザだけでなく西岸の情勢も緊迫化しており、そういった状況の中 UNICEF パレスチナ事務所で勤務し、国連による人道支援や平和構築の可能性、そしてその課題について深く考える契機になりました。



UNICEF 職員と現地 NGO スタッフと一緒に

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後も UNICEF 等の国際機関において、青少年関連の事業や平和構築に関するプロジェクトに携わっていきたいと考えています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

国際機関で働きたいけれど、そのエントリーポイントがわからないと考えている方に心からお勧めします。この研修を通して私は、国連機関での勤務経験や、研修員や講師の方々とのネットワークを得る事が出来ました。平和構築人材育成事業は、自分が国際機関でキャリアを築く上で非常に重要なターニングポイントになったと考えています。